

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）

総括研究報告書

網膜脈絡膜・視神経委縮症に関する調査研究

研究代表者 山下 英俊 山形大学大学院医学系研究科眼科学講座・教授

研究要旨：眼科疾患の中には、罹患率が低く、治療法が確立されていない、希少難治性疾患が存在する。このような疾患については、医療の標準化がおこなわれておらず、眼科医における認知度も低いため、本邦における罹患状況の詳細は不明である。そこで、希少難治性眼疾患の診断基準の策定と、診断基準に基づく疫学調査による現状の把握が必要である。本研究では、家族性滲出性硝子体網膜症は昨年度に作成した診療ガイドラインをもとに、全国患者数調査を行なった（現在、結果を解析中）。強度近視性脈絡膜萎縮は昨年度に作成した診療ガイドラインに基づき全国患者数調査を計画した。黄斑ジストロフィ、急性帯状潜在性網膜外層症は診療ガイドラインを作成し、日本網膜硝子体学会・日本眼科学会の承認を得て日本眼科学会雑誌に投稿した（in press）。網膜色素変性症は、2018年5月29日に患者レジストリシステムが完成し、7月から症例登録を開始した（2019年3月時点で参加施設は23施設）。全国視覚身体障害原因認定状況調査は前回調査に基づいた論文を発表した。特発性傍中心窩毛細血管拡張症は診療ガイドラインの作成に着手しており今後内容をまとめ発表する予定である。萎縮型加齢黄斑変性は、患者数の明確化と重症度別の頻度を継続して調査を行う。本研究の成果が、希少難治性眼疾患の現状把握と診療の標準化、そして現実に即した厚労行政の推進に寄与することが期待される。

研究分担者

東範行（国立成育医療研究センター・眼科・視覚科学研究室・医長・室長）、飯田知弘（東京女子医科大学・眼科・教授・講座主任）、大野京子（東京医科歯科大学・眼科・教授）、小椋祐一郎（名古屋市立大学・大学院医学研究科・教授）、近藤峰生（三重大学・医学系研究科・教授）、坂本泰二（鹿児島大学・学術研究院医歯学域医学系・教授）、園田康平（九州大学・大学院医学研究院・教授）、高橋寛二（関西医科大学・医学部・教授）、高橋政代（理化学研究所生命機能科学研究センター・プロジェクトリーダー）、辻川明孝（京都大学・医学研究科・教授）、寺崎浩子（名古屋大学・大学院医学系研究科・教授）、村上晶（順天堂大学・医学部・教授）、森實祐基（岡山大学・大学院医歯薬学総合研究科・准教授）、山本修一（千葉大学・大学院医学研究院・教授）

A. 研究目的

希少難治性眼疾患の診断基準や診療ガイドラインの策定、診断基準に基づく疫学調査による現状の把握を行う。また、難治性眼疾患の多くは視覚身体障害の原因疾患と関連があるため、視覚身体障害の認定状況の全国調査を行い、難治性眼疾患患者に対する福祉行政の現状を把握する。

B. 方法

研究分担者を、疾病や疫学調査の対象によって8の担当グループに分け、各グループにおいて、診療ガイドラインの策定や患者数調査、自治体へのアンケート調査を行った。診療ガイドラインの草案は、他のグループに属する研究分担者や、各疾患を研究対象とする専門学会による評価を受けた。

(倫理面への配慮)

診断基準策定と個人情報の特典されないアンケート調査であるので、倫理的問題は生じない。

C. 結果

家族性滲出性硝子体網膜症は昨年度に作成した診療ガイドラインをもとに、全国患者数調査を行なった(現在、結果を解析中)。強度近視性脈絡膜萎縮は昨年度に作成した診療ガイドラインに基づき全国患者数調査を計画した。黄斑ジストロフィ、急性帯状潜在性網膜外層症は診療ガイドラインを作成し、日本網膜硝子体学会・日本眼科学会の承認を得て日本眼科学会雑誌に投稿した(in press)。網膜色素変性症は、2018年5月29日に患者レジストリシステムが完成し、7月から症例登録を開始した(2019年3月時点で参加施設は23施設)。全国視覚身体障害原因認定状況調査は前回調査に基づいた論文を発表した。特発性傍中心窩毛細血管拡張症は診療ガイドラインの作成に着手しており今後内容をまとめ発表する予定である。萎縮型加齢黄斑変性は、患者数の明確化と重症度別の頻度を継続して調査を行う。

D. 考案

診療ガイドラインの策定によって、施設間による診断のばらつきが小さくなり、患者の見落としが減るなど、医療の標準化が進み、医療の質が向上することが期待される。また、有病率調査や視覚身体障害認定状況の全国調査の結果は有効な医療福祉資源配分に繋がるといえる。

E. 結論

本研究で策定した診療ガイドラインおよび疫学データは日本眼科学会を通じて広く全国の眼科医に周知される。それにより難治性眼疾患に対する診療の標準化が進むことが期待される。また、わが国の希少難治性眼疾患に対する理解、疾病予防の啓発が進むことが期待される。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Yuki Morizane, et al. Incidence and causes of visual impairment in Japan: the first nation-wide complete enumeration survey of newly certified visually impaired individuals. Jpn j Ophthalmol. 2019 Jan; 63(1): 26-33

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

